

株式会社DND / コラム図解資料

デジタル化・AI導入補助金とは何か 旧IT導入補助金からの変更点と申請の基本

最大450万円補助 / 2026年度版

2026年7月 / 業務効率化

株式会社DnD (Distill n Develop)

<https://dnd-inc.jp/>

この資料の要点

- 旧IT導入補助金が2026年4月から「デジタル化・AI導入補助金」に名称変更。AI機能付きツールが補助対象として明確化された。
- 通常枠の補助上限は最大450万円、補助率は原則1/2。目的別の申請枠を選ぶことが重要。
- 「交付決定前に発注してはいけない」など、手順を守らないと補助対象外になる。

制度の概要

「デジタル化・AI導入補助金」は、中小企業・小規模事業者が業務の生産性向上を目的としてITツールを導入するときに費用の一部を国が補助する制度です。2026年4月、「IT導入補助金」から名称変更され、AI機能を搭載したツールへの対応が明確に位置づけられました。

補助を受けるには、事務局に登録されたITツールを、登録済みのITベンダー（支援事業者）を通じて導入する必要があります。

旧IT導入補助金からの主な変更点

- **名称変更と対象の明確化**：AI機能付きのITツールが補助対象として明示。
- **申請枠の整理**：通常枠、インボイス枠、セキュリティ対策推進枠、複数者連携枠が整理。
- **再申請ルールの追加**：過去受給事業者が再申請する場合、3年間の事業計画策定が必要。

申請枠の比較

- **通常枠**：幅広い業務改善ツール対象。補助率1/2、最大450万円。
- **インボイス枠（インボイス対応類型）**：会計・受発注ソフトのインボイス対応。小規模事業者優遇。
- **セキュリティ対策推進枠**：EDR・セキュリティソフト導入向け。
- **複数者連携枠**：複数事業者が連携してデジタル化を進める場合。

「とりあえず通常枠」を選ぶ前に、インボイス枠など優遇率が高い枠に該当しないか確認することが大切です。

申請の流れ

- 1 支援事業者（ITベンダー）を探す — 公式ポータルで対象ツールを扱う事業者を確認。
- 2 交付申請 — 支援事業者と一緒に申請マイページから必要事項を入力・申請。
- 3 交付決定の通知を受ける — ここまでは発注・契約・支払い不可。
- 4 発注・契約・支払い — 交付決定後にツールを発注・導入・支払い。
- 5 事業実績報告 — 導入後に実績報告書を提出。
- 6 補助金の振込 — 確定検査を経て補助金が支払われる。

申請開始から入金まで早くても半年程度。資金計画には余裕を持たせてください。

失敗しないための3つの注意点

- 交付決定前の発注は絶対にしない：最も多いミス。先に動いてしまうと補助対象外。
- 対象ツールを事前に確認する：登録済みツールのみが補助対象。公式検索で必ず確認。
- 支援事業者選びを急がない：書類の内容は自社でも確認する姿勢が大切。

AI導入との組み合わせで何ができるか

2026年度の名称変更で、生成AIを使った文書作成支援・議事録要約・問い合わせ自動対応といった機能が組み込まれた業務ツールも、登録されていれば補助対象になり得ます。

ただし「AIを使いたいから申請する」ではなく、**自社のどの業務課題を解決するか**を先に整理することが重要です。

株式会社DnDに相談する

補助金を活用したAI・業務効率化ツールの選定から導入設計まで、中小企業のDX推進を伴走支援しています。ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>

※ 本資料は2026年7月時点の公開情報をもとに作成しています。補助金の内容・スケジュールは変更される場合があります。最新情報は中小企業庁の公式サイトおよび申請ポータルでご確認ください。

株式会社DnD / <https://dnd-inc.jp/>